



未来への想像

渡邊 弘子 富士電子工業株式会社 代表取締役

私事ではありますが、先日、義母が亡くなりました。実母ではありませんが、とても私の事を気遣ってくれる大好きな人でした。

この文章を読んで下さる方々の中にも、葬儀にあたりお心遣い下さった方々があり、この場を借りてお礼を申し上げます。

義理ではあっても、初めて、親と呼んでいた人を亡くしました。

こういう事があると、これからの事を、改めて考えます。

5年先の事、10年先の事、会社の事、家族の事。

そうして、そういう想像が、自分の頭の中で繰り返される時に、結構自分の都合の良いように想定条件を考えている事にも、はたと気づきます。

5年先に病気をしてない保証もなければ、五体満足な状態であるかさえ限っていないのに、勝手に色々な事が今と同じように出来ると思っています。

私は、誘導加熱装置やそれを利用した熱処理設備メーカーの社長をやっていますが、本業の新技术開発などに関しても、今の延長線上に新アイデアが継続して出てくると何処かで安易に思っていますし、誘導加熱が必要なくなるとか、現在の顧客がある日突然そうでなくなる事など露ほどにも考えていなかったりします。

でも、未来の保証は全くありません。

10年前には隆盛を極めていた企業が倒産しそうになる、例えばデジタルカメラのように同業者で競争しているうちに、製品の存在自体がスマホなど別製品に取って代わられる例などは、皆さんも思い起こせば枚挙に暇が無いと思います。

だから、いつでも未来への想像は自分の勝手な妄想の上に妄想を重ねたものです。

それでも、私は、必ず、未来への想像という行為はおこなわれるべきだと考えています。

最近の若者は（この言い方自体が嫌いですが）、想像力がないとよく言われています。

この状況が続けていたら10年後にどんな生活が待っているか、を想像できないので、登校拒否、引きこもり、退学、定職に就かない、転職を繰り返す、そういった事が、後で自分にどんな風に降りかかってくるのかも考えられません。

また、「親はいつまでも生きていない。」「子供を産める年齢にはリミットがある。」といった都合の悪い情報には、目を背けて、その不都合な未来に思いを馳せる事を拒否している方々は、立派な大人の中にも沢山います。

しかし、人は、未来に対して想像をする事によって、現状の方針や施策のその先に何があるか、考えるようになります。

残念ながら、最近、本当にこの方は、ご自分の任期の先の未来を想像して、その上でこの方針が正しいと思っていられるのか、と疑問に思う事があります。

例えば、顕著なものに、コストダウンという呪縛があります。

立派な企業の経営者にも、さもコストダウンしか利益を出す方法がないかのようにお話をされる方がいて、少しでも安い人件費、少しでも安い設備、少しでも安い

(わたなべ ひろこ)

加工費、に拘っています。従業員をコストとしか捉えない経営者は、そのコストを中長期的に育てようとはしません。少しでも安い設備投資が善だと信じている方は、価格のみで設備を決定し、その企業が未来に存在し続け、次の開発を手助けしてくれる企業かどうかは考えていません。

少しでも安い加工費、と、加工業者をいつも比較して考える企業には、将来困った時に助けてくれる協力企業はありません。少々加工量が増えても、コストダウンにひたすら付いてきてくれた企業には、設備投資をする余力がないからその仕事を請け負う事は出来ません。

いえいえ、余力があっても、いつ転注するかどうか分からない顧客のために無理はしません。

そういう事は、不都合な未来です。

でも、私は、この不都合なものも含め未来に想像力を働かせていたいと思っています。

それが、小さくとも経営者としての責任だとも思っています。

経営者が未来に対しての想像力を働かさないと、誰も代わりに考えてはくれません。

今年、4年に1度の工業炉の展示会「サーモテック 2017」があります。

今回も、設備を持ち込み、現地で実演しようと考えています。

弊社なりに考える IH 熱処理設備の未来を少しお見せできたら、と考えておりますので、皆さんと会場でお目にかかれたなら幸いです。